

# FD 研修報告書

開催年度・実施部局(2025・経済学研究科)

---

## (1)開催日時

2026年1月30日(金)

---

## (2)テーマ

「知の総和」答申を踏まえた今後の大学院改革について(白幡晶先生)

---

## (3)目的・達成目標

今後の経済学研究科の運営、教育改革(特に「質」の改善)の方向性についての情報収集を目的とし、改善に向けて取り組むことを達成目的とする。

---

## (4)研修会の内容

白幡晶先生を講師としてお招きして、(イ)大学院改革の検討部会はどこでなされているか、(ロ)大学院教育の質の保証とは何か、(ハ)「4+1」プログラム(学部・修士一貫教育)とは何か、について約1時間にわたって講義がなされた。

---

## (5)参加者数(全体数、教員/職員/学生数)

教員10名(対面3名、オンライン7名)

---

## (6)講評等

大学院教育の質の保証および「4+1」プログラム(学部・修士一貫教育)について、明確に理解することができ、今後の経済学研究科の変革に生かすことが期待される。

---

## (7)今後の課題、改善点、方向性等

大学全体で文科省の方針に準じた迅速な変革が補助金等にも影響する。規模の大きな大学は、専門の部局(文科省の方針を検討し変革を実行する)を所持しているが、城西大学のような中規模の大学では、職員と教員が連携し、迅速な変革をしていくことが、大学全体としての今後の課題である。

---

# FD 研修報告書

開催年度・実施部局(2025・経営学研究科)

---

## (1)開催日時

第1回 2025年10月24日

第2回 2026年3月27日

---

## (2)テーマ

第1回 課程博士学位審査論文審査プロセスについて

第2回 論文博士学位審査論文審査プロセスについて+修士指導教員と学生のマッチング方法について

---

## (3)目的・達成目標

第1回 経営学研究科博士課程における課程博士取得プロセスを明確化する。

第2回 経営学研究科博士課程における論文博士取得プロセスを明確化する。

修士指導教授と学生のマッチング方法の説明。

---

## (4)研修会の内容

第1回 他大学の事例を紹介するとともに、本学のプロセスについて議論した。

第2回 他大学の事例を紹介するとともに、本学のプロセスについて議論した。

修士課程の学生と指導教授のマッチングプロセスを説明した。

---

## (5)参加者数(全体数、教員/職員/学生数)

第1回 教員 11名

第2回 教員 12名

---

## (6)講評等

とくになし

---

## (7)今後の課題、改善点、方向性等

第1回 今後も問題があれば、研究科委員会で議論し、プロセスを決定する予定。

第2回 今後も問題があれば、研究科委員会で議論し、プロセスを決定する予定。

---

# FD 研修報告書

開催年度・実施部局( 2025・ 理学研究科 )

---

## (1)開催日時

2025年7月3日(木) 13:00-13:40(講演)

---

## (2)テーマ

大学院入学者の確保—薬学部薬科学科の取り組み—

---

## (3)目的・達成目標

目的:理学研究科の内部進学率の向上を図る

達成目標:内部進学率向上に向けた具体的な取り組み事例を理解し、教員一人ひとりが実践可能な施策として活用できるようになる。

---

## (4)研修会の内容

内部進学率が約50%と理学部に比べ非常に高い約化学科の「組織形態」「薬科学専攻(博士前期課程)への進学状況」「薬学部の特異状況」「取り組み」に関する薬学研究科長(約科学専攻)の古旗賢二先生のご講演と引き続き質疑応答。

---

## (5)参加者数(全体数、教員/職員/学生数)

教員 22名

---

## (6)講評 等

本研修会では、内部進学率向上に向けた具体的かつ実践的な取り組みについて理解を深めることができた。特に、組織的な指導体制の構築や、早期から進学について意識させること、学生一人ひとりに対する丁寧な進路支援の重要性が示され、理学研究科においても参考となる知見が多く得られた。また活発な質疑応答が行われ、本テーマに関する関心の高さが伺えた。

---

## (7)今後の課題、改善点、方向性等

アンケート結果から「学部低学年からの大学院進学に対する意識付けの強化」「研究の魅力や大学院進学の特長の効果的な発信」が重要との声が多くあった。教員の意識変化はあったので、今後「理学研究科では具体的に何を行うのか」を考え、実践する必要がある。

---

# FD 研修報告書

開催年度・実施部局(2025 年度・薬学研究科)

---

## (1)開催日時

2026 年 2 月 20 日(金) 13 時 30 分～14 時 30 分

---

## (2)テーマ

薬学部大学院生の就職市場と対策について

---

## (3)目的・達成目標

学生のキャリア形成の一助となることを目的とし、博士課程修了後の就職事情について、教員として現状把握を行うことを到達目標とした。

---

## (4)研修会の内容

「薬系学生から博士課程までの就職活動の進め方」と題して羽柴 健 様(所属 株式会社 マイナビ)からご講演頂いた。

---

## (5)参加者数(全体数、教員/職員/学生数)

教員 51 名、事務職員 1 名

---

## (6)講評 等

薬学部大学院生の就職活動について、(株)マイナビより情報提供が行われた。大学院生の就職活動は、以前主流であった推薦応募システムから、自由応募システムへ変化してきていること、就職市場の現状、面接対策、企業選択の重要性などが説明された。薬学の学生の課題として、研究開発職への就職が難しいこと、採用手法が多様化していることから、学生が準備しておくべきことも多くなっており、学生の積極的な情報収集と自己 PR を強化する必要性が説明された。

---

## (7)今後の課題、改善点、方向性等

実施後のアンケートでは、理解度は回答 28 のうち 23 が「できた」5 が「少しはできた」であった。また、14 名が「有意義だった」、14 名が「やや有意義であった」と、全体的に本 FD は良い評価が得られたと考える。大学院、特に博士課程修了後のキャリアについてはデータが少なすぎるので、もう少しデータを収集した上で対策を練る必要性を感じた。

---

# FD 研修報告書

開催年度・実施部局(2025 年度・薬学研究科・薬学部 共催)

---

## (1)開催日時

2026 年 3 月 4 日(水) 14 時 00 分～17 時 00 分

---

## (2)テーマ

サイエンスカフェ

---

## (3)目的・達成目標

FD の目標:本 FD は、薬学・薬科学・医療栄養といった医療系分野の教員が研究内容や教育経験を共有し、分野横断的な対話を通じて教育・研究力の向上を図ることを目的とする。近年、研究の高度化・複雑化が進む中で、分野の枠を越えた視点や協働の姿勢が、研究の発展および教育の質向上において重要となっている。本企画では、教員が互いの研究活動や教育実践を共有することで、新たな研究連携の可能性を探るとともに、その知見を学生教育や大学院教育へ還元することを目指す。

達成目標:本 FD を通じて、若手から中堅教員が研究内容を気軽に発表し合い、教員間で知見や経験を共有する機会を創出する。これにより、1)分野横断的な研究交流の促進、2)新たな共同研究や教育連携の契機の創出、3)研究活動から得られる知見の教育現場への還元を図る。

さらに、若手教員のプレゼンテーション能力や研究発信力の向上を促すとともに、教授陣の経験や洞察を学部・研究科全体へ共有することで、「教員同士、そして学生・大学院生が互いに学び合う文化」を醸成し、教育研究活動の活性化につなげることを目標とする。

---

## (4)研修会の内容

・講演(3名) (各 20-25 分+質疑 5 分)

1)薬科学科 矢島 克彦 先生 (座長: 中谷 祥恵 先生)

演題:「“寝ている間”に脂肪を燃やす重要性 一栄養×代謝×睡眠研究一」

2)医療栄養学科 小暮 更紗 先生 (座長:岩田 直洋 先生)

演題:「調理学の学際的アプローチが拓く食と健康への貢献」

3)薬学科 茂木 肇 先生 (座長:安藤 祐介 先生)

演題:「肝再生を加速する因子とそのシグナル伝達機構」

・情報交換会

---

## (5)参加者数(全体数、教員/職員/学生数)

教員 49 名、大学院生 18 名、学部生 57 名

---

## (6)講評 等

城西大学薬学部・薬学研究科では、2026 年 3 月 4 日、23 号館にて「サイエンスカフェ」を開催した。本企画は、教員が自身の研究を紹介し、学生・大学院生とともに研究について意見交換を行うことで、研究理解の促進と教育研究活動の活性化を図ることを目的として実施したものである。

当日は、薬科学科、医療栄養学科、薬学科の教員3名が講演を行い、研究の背景や社会的意義について紹介した。講演後には学生から質問も寄せられ、研究について教員と学生が意見を交わす機会となった。

講演後にはカフェ形式での情報交換も行われ、学科や研究分野を越えた交流が生まれた。本企画は、教員・学生双方にとって研究への理解を深める機会となり、教育研究活動の活性化につながる取り組みであった。

薬学部 HP へ記事を掲載：[https://www.josai.ac.jp/news/science\\_cafe\\_20260304/](https://www.josai.ac.jp/news/science_cafe_20260304/)

---

#### (7) 今後の課題、改善点、方向性等

本企画は、教員と学生が研究について意見交換を行う有意義な機会となった。一方で、より多くの教員・学生が参加しやすい運営方法や、分野横断的な議論をさらに深めるための工夫が今後の課題である。具体的には、講演内容のテーマ設定や学生参加の促進、交流時間の確保などを検討する必要がある。

今後は、本取り組みを継続的な学術交流の場として発展させるため、次回以降は年2回程度(不定期)の開催を視野に入れ、実施体制や企画内容の充実を図っていく予定である。教員・学生が互いに学び合う環境を醸成し、教育研究活動のさらなる活性化につなげていく方針である。

---

## FD 研修報告書

開催年度・実施部局(2025 年度・薬学研究科・薬学部学生支援委員会 共催)

---

### (1)開催日時

2026 年 3 月 13 日(金)

---

### (2)テーマ

学生をサポートする教職員の負担感軽減のために-薬学部生の心の支援について考える

---

### (3)目的・達成目標

薬学部および薬学研究科で適切な学生支援を行うため、学生支援体制の充実を図る

---

### (4)研修会の内容

学生のメンタルヘルスの傾向と状況から、入学前、入学後での危険因子がメンタルヘルスに大きく影響する。メンタルヘルスの悪化により、自殺するケースが高学年に多く、特に成績が出る 9・3 月、学年が切り替わる 4 月に多い。薬学部での学生の心の支援イメージ案では、相談事を学生支援委員会相談窓口を集約したものを学修支援とメンタルヘルス支援に分けて対応する予定である。メンタルヘルスを悪化させない予防や対策として、学生同士がお互いを思いやる風土を根付かせることや困ったときは相談するべきという雰囲気づくりが大切である。

---

### (5)参加者数(全体数、教員/職員/学生数)

教職員 65 名、学生 31 名

---

### (6)講評 等

本 FD では、学生のメンタルヘルスの現状とその危険因子について理解を深めるとともに、薬学部における学生支援体制の在り方について共有を行った。特に、入学前後の環境変化や学業成績の評価時期(9 月・3 月)、学年の切り替え時期(4 月)などが学生のメンタルヘルスに影響を及ぼす要因となり得ることが示され、早期の気づきと支援の重要性が再認識された。

また、学生からの相談を学生支援委員会の相談窓口を集約し、その内容に応じて学修支援とメンタルヘルス支援に適切に振り分けて対応する体制案について共有した。これにより、教職員間で学生支援の役割や連携の方向性について共通理解を得ることができた。さらに、メンタルヘルス悪化の予防の観点から、学生同士が互いを思いやり、困った際には相談できる雰囲気づくりの重要性について認識を深める機会となった。本 FD を通じて、学生の心身の健康を支えるための学内体制の強化と、教職員による早期対応の意識向上に寄与したと考えられる。

---

### (7)今後の課題、改善点、方向性等

本 FD により、学生のメンタルヘルスへの理解と支援の重要性が共有された。今後は、相談窓口を中心とした支援体制の運用を明確化するとともに、教職員間の情報共有と連携を強化する必要がある。また、学生が相談しやすい環境づくりや相互に支え合う風土の醸成を進めていくことが重要である。また、相談を受ける立場として精神的疾患の特徴などをしっかり理解することが重要である。

---

# FD 研修報告書

開催年度・実施部局 (2025 年度・薬学研究科薬科学専攻・薬学部薬科学科教科委員会 共催)

---

## (1) 開催日時

2026 年 3 月 16 日(月) 13 時 00 分～14 時 00 分

---

## (2) テーマ

新しい大学評価に関する FD:DP の達成度評価が可能なアセスメントプランの策定の重要性と、今後の大学評価の変化について

---

## (3) 目的・達成目標

目的: 学科別ディプロマ・ポリシー(DP)修正・教育評価設計の準備状況、文科省の「知の総和方針」(2025-02 公表)に基づく新評価制度の最新動向の把握と薬科学科の方針の確認。大きく変容する大学評価の全体像を把握し、特に薬科学科を大学院博士前期課程薬科学専攻で必要となる対応について認識を新たにする。

達成目標: 達成度評価が可能なアセスメントプランの策定と DP 作成

---

## (4) 研修会の内容

薬学科の関俊暢先生をお招きして、2026-03-19 開催予定の薬学部・薬科専攻研究科の FD に向け、学科別ディプロマ・ポリシー(DP)修正・教育評価設計の準備状況、文科省の「知の総和方針」(2025-02 公表)に基づく新評価制度の最新動向、ならびに卒業研究を骨格とした体系的カリキュラム設計・評価運用について詳細を共有した。

---

## (5) 参加者数(全体数、教員/職員/学生数)

薬科学科教員 14 名

---

## (6) 講評 等

文科省の「知の総和方針」(2025-02 公表)に基づく新評価制度の最新動向の認識の共有化ができた。

---

## (7) 今後の課題、改善点、方向性等

- ・薬科学科は独自の教育目的・学習成果評価方法(体系的カリキュラム設計・評価)を来年度設定する。
  - ・非卒研科目での段階的成長評価設計(汎用的研究能力の育成)。
  - ・卒業研究を骨格とする場合の詳細設計(ABC 構成、2～4 年次配置、対象領域と順序運用)と、4 年次集約案との比較検討。
  - ・大学院改革の導入可否判断(薬科学科における 5 年修士・8 年博士)について審議する。
-

## FD 研修報告書

開催年度・実施部局(2025 年度・薬学研究科・薬学部(PDCA 推進委員会) 共催)

---

### (1)開催日時

2026 年 3 月 19 日(木) 14 時 00 分～15 時 15 分

---

### (2)テーマ

大学・大学院評価の在り方

---

### (3)目的・達成目標

令和 7 年 2 月の中央教育審議会答申「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～」では、我が国の最も重要な課題として少子化を指摘したうえで、高等教育が目指す姿として、「知の総和」を向上させることを掲げた。この「知の総和」の向上を実現するためには、高等教育機関の学生一人一人が能力を最大限高めていくことが必要であり、そのためには、新たな高等教育の質保証・向上システムを構築することが求められている。それに伴って、教育・学習の質向上に向けた新しい大学評価の在り方に関して最新の動向を解説して貰い、今後への対応の一助とする。

---

### (4)研修会の内容

2029 年度から開始される新しい評価システムに関して、DP の明確化、教育への反映、客観的データを用いたポートフォリオの重要性等、『知の総和答申』に関する新しい情報を共有し、18 歳人口の減少に伴う大学進学志望者の数の変化について評価動向を理解し、社会への実際の活用状況についての証拠資料の収集・提供することを目的とした。

---

### (5)参加者数(全体数、教員/職員/学生数)

78 名

---

### (6)講評 等

2029 年度から開始される新しい大学評価制度について議論されました。講師より文科省の「知の総和」答申に基づく大学評価の新システムについて詳しく説明し、大学全体評価と学部別評価の段階的プロセス、4 段階の評価基準(グリーン・青・赤・紫の各レベル)、そして評価に必要なデータ収集と情報公開の重要性を強調された。会議では、城西大学の 3 学科が足並みを揃えて準備を進める必要性が議論され、特に薬学部の評価準備について重点的に話し合われた。

---

### (7)今後の課題、改善点、方向性等

薬学科の DP 修正と 2026 年度中の CP 作成計画、教員評価の導入や情報公開の必要性が強調される中、薬学部・薬学研究科としての評価受審に向けて、2029 年から 2033 年までの 6 年サイクルで評価が行われる予定で、早期に手挙げることで有効期間が長くなること、規模の適正化への対応が必要との意見が出された。

---